



市P連だより

第56号

令和6年3月発行

尾道市PTA連合会

事務局 〒722-0043 広島県尾道市東久保町20番14号 おのみち生涯学習センター内
TEL (0848)37-7353 FAX (0848)37-7354 E-mail iimukyoku@onomichi-ptt.net

卒業生の皆さんへ

卒業生の皆さん、おめでとうございます。小学校6年間、中学校3年間。皆さんにとってどのような時間だったのでしょうか。再三、修学旅行の行き先が変わったり、行事が中止になつたりと受難の学年であつたと思いますが、晴れて立派に卒業を迎えることができました。本当によくがんばりました！



尾道市PTA連合会
第24代会長
吉浦中貴

我慢はしなくて良い、と言つてゐるわけではありません。他人と社会で生きて行なうためには、ある程度何事も我慢する力は絶対に必要です。ですが良くも悪くも口口ナ禍がきっかけで「そもそも」と考へる機会が格段に増えたことは確かです。「この我慢は何のため?」の作業は何のため?この印鑑必要?対面で会つて話す必要がある?」こうして一步下がつて物事を見て、考え方や方法をアツブデーターする機会になりました。

大人の間でも、忘年会や新年会が無くなつて人間関係が希薄になつたと感じる人もいます。実際やはり会話の機会が減り、お互いの理解が足りなくなるの

ンズの為に動画を16倍で見ても内容の理解に支障はありません。世の中にオンライン会議やオンライン授業も浸透して、もはや無くてはならないものになってしまった。

係構築はできません。困ったときに早めに「コミュニケーション」といえば問題にならなかつたことも「報連相」が無いとマズイ事になります。人はやはり、他の人と会話をし、共感したり対立しながらでも繋がりを感じてこそ自分を確立できる生き物なのだと思います。

会話が苦手な人もいるでしょう。でも、できるだけ他の人と話をしてみるようにして欲しいなと思います。友人との他愛のない会話も、世の中の「そもそも」のアップデートのきっかけのアイデアになり得るでしょう。「自分とは真逆の考え方の方の人の意見によって「真ん中」を選択して結論のバランスをとる事もできるでしょう。その人の過ごしてきた時間と経験から紡がれる言葉に触れて会話をする事で、皆さん自身の考え方の幅が拡がり、選択肢が増えるのです。黙食で会話の時間が少なかつた分、みなさんにはこの先是非楽しみながら様々な人々と会話

卒業生へのメッセージ

四月からの新生活は楽しいことや嬉しいこと、悔しいことなど、様々なことがあると思います。自分の思いどおりにならず、諦めそうになることもあるかもしれません。

してこられた先生方、学習支援や登下校の見守り等で、卒業生を支えてくださった地域の方々をはじめ、関係者の皆様にこの機会をお借りし、厚くお礼申上げます。

卒業される皆さんは、学校生活を振り返って、どのような思い出がよみがえってくるでしょうか。

卒業される皆さんは、学校生活を振り返つて、どのような思い出がよみがえてくるでしょうか。

現在は、新型コロナウイルス感染症が五類へ移行し、徐々にコロナ禍以前の生

そして、皆さんが挑戦する姿を、周りの人は、ときには助け、ときには優しく見守り、これからも支えてくれることでしよう。周りの人への感謝も忘れず、共に支えあい、協力しあって次のステージに進んでいくください。

生活に戻りつつありますが、皆さんの学校生活は、休校やオンライン授業、学校行

尾道は、自然に恵まれ、歴史文化の香るすばらしいまちです。この故郷尾道で

事やクラブ活動の中止・縮小など、様々な制限を余儀なくされました。また、人の交流もむずかしく、思うような学校生活が送れず、悔しい思いをされたこと

生まれ育ち学んだことを誇りに持ちながら、これから未来に胸を膨らませ、大きな夢と志を抱いて、羽ばたいていくくれることを心から願っています。

をしてほしいと思います。
保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。同じ卒業生を持つ親として、本当にあつという間に時間が過ぎた気がします。引き続き、卒業生たちの歩みを支えて行って下さいますよう、お添えをよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、あらためて卒業生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

これから旅路が明るく幸せな旅路

もたくさんあったのではないかと思います。
こうした経験をした皆さんであるからこそ、人と人とのつながりを大切にしていただきたいと思います。

表敬訪問

要望書の提出

令和5年7月27日、吉浦会長以下、副会長二名が市役所を訪れ、尾道市内公立小中学校の教育環境の更なる改善を求めて、尾道市長、尾道市議会議長、尾道市教育委員会教育長に要望書を提出しました。

要望書の骨子は三点。

1. 各校支援員の増員及び不登校児童生徒への支援について
2. トイレ環境の改善・改修について
3. 各教室のネット環境・電話環境について

要望書を受け取った尾道市長は、「コロナ禍で増加した不登校児童生徒のケアについて継続的に取り組むこと、教育環境整備へ可能な限りの改善を行っていくとのお答えをいただきました。尾道市PTA連合会として、「地域愛あふれる、人間性豊かな尾道っ子」を育成するための教育環境の充実を求め、今後も行政に要望をしていきます。



学校へ泊まろう! 2023

令和5年8月11、12日に、原田芸術文化交流館やまそら(旧原田中学校)にて「学校へ泊まろう! 2023」を実施しました。市P連初の試みにも関わらず、小中学生の定員120人に対し約400件の応募がありました。

ボランティアでお手伝いしていただける保護者様も想定よりかなり多く、非常に助かりました。

たくさんの野菜を切ってカレー作り、バスで温泉へ行き、キャンプファイヤー、野外映画、花火、竹を作った箸で流しそうめんを食べたり、未成年の主張と、盛りだくさんでした。楽しそうな小学生にお世話をしている中学生、他校の生徒児童との交流を通して大きく成長した子ども達、そんな姿が心に残る一泊二日となりました。

企画にご理解、ご賛同いただき誠にありがとうございました。





星空映画祭



昨年度、「コロナ禍だからこそ出来ることを」と、市PTA連にて企画、運営し、尾道市内13か所、5000人を動員した「星空映画祭」。どの会場も、子ども達の笑顔の花が咲き、それを見つめる保護者の微笑む姿も印象的でした。また会場運営するPTA役員の皆さん的一生懸命な顔も忘れられません。

そんな「星空映画祭」ですが、今年度も市PTA連として機材提供をさせていただいた所、8校のPTAさんが手を挙げてくださり、思い思いの映画祭を開催してくださいました。

また映画という枠にとらわれず、大型スクリーンを使った「ゲーム大会」を実施した学校もありました。単年で終わらず、こうして続していく行事となっていることに、発案側として素直に喜びを覚えます。

来年度以降も、上映機材一式を無料にて貸し出しておりますので、お気軽に事務局までご連絡ください！

実施日	会場
7月30日	長江中
8月 4日	高須小
8月 5日	西藤小
9月15日	三成小
9月16日	三幸小
9月22日	栗原小
9月23日	美木原小
9月30日	栗原北小



各種発表や飲食販売など、
映画祭と共に様々な催しが実施されました。

150周年行事

吉和小学校

10月14日

バルーンリリース／タイムカプセル埋め



久保小学校

10月14日

記念式典(久保中学校プラスバンド部演奏・尾道東高等学校吹奏楽部演奏・久保小学校150周年記念スライド上映)
バルーンリリース



今年度、周年行事を実施した学校の中で、情報提供をいただいた学校の紹介をさせていただきます。

栗原小学校

9月27日 航空写真撮影

10月21日 栗原小出身歌手、和泉紗江さんを迎えての特別発表会

12月19日 米村でんじろうプロダクションのサイエンスショー

1月12日 バルーンリリース

3月 タイムカプセル埋め(予定)



向東小学校

11月26日

記念式典(全校児童による「ふるさとの四季」合唱等)

タイムカプセルセレモニー／バルーンリリース

保護者、地域住民向け記念講演会(木下晴弘先生)

児童向け記念講演会(大畠崇央先生)

花火打ち上げ



コロナが5類移行となつた、令和5年9月10日、「尾道市PTA連合会親睦ソフトバレーボール大会」が4年ぶりに開催されました。待ちに待つ開催に、500名を超える参加者が一堂に会し、会場は熱気や声援に揺れ、試合後のお互いに称え合う姿に拍手も鳴り響いていました。

今回は市P連にとっても特別な大会となり、「誰もが全力で楽しむ!」ために、大きく2つの点で開催方法を変更した大会となりました。それは、①今まで大きな負担となつた「中学校ブロックの当番制」を廃止し参加選手にて大会運営をするということ、②バレー経験者でなくとも参加して楽しめる部門の「ゆるリーグ」を創設したことです。

「自分たちの大会を自分たちでつくる!」という参加選手たちの心意氣によって、大会はより楽しく、初心者、経験者の隔てなく、誰もが輝いてる光景が随所にあふれていて、保護者、先生、子どもたちが一緒に楽しめる大会となりました。開催後アンケートでも開催方法の賛同意見が多くを占め、史上最速の閉会式も大変好評でした。参加、運営してくださった選手の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました!また来年お会いしましょう!



尾道市PTA連合会 親睦ソフトバレーボール大会

最近「ギフテッド」という言葉を聞くことがあります。才能に恵まれた、ほんの一握りの人を指すそうです。しかし、子どもにはそれぞれの素晴らしい持ち味があります。そんな意味で、子どもはみんなギフテッドではないかと思います。大切なのは、それぞれの得意なことを見つけ、更に伸ばすこと。そして私たち保護者の役割は、いつか社会で役に立つかもしれない様々な体験を子どもにさせてあげることではないでしょうか。

(広報部 村上 純平)

編集後記

